

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立折尾高等学校

自己評価					学校関係者評価			
学校運営計画(4月)				評価(総合)		自己評価は		
学校運営方針	校訓「礼節・誠実・品性」に掲げる3つの観点を基本に据え、「鍛ほめメソッド」を教育活動全体で展開			A				
昨年度の成果と課題	本年度重点目標	具体的目標			A			
「学びに向かう力」を高める教育活動に重点を置き、新学習指導要領への円滑な移行を図るため、教務内規の改定を行う等カリキュラム・マネジメントを推進した。文房具としてのICTを活用した「新たな学び」の研修を重ね、「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業実践に取り組んだ。コロナ禍における制約を受けながらも学校行事等を工夫しながら行い、学校での学びを大切に教育活動を実践した。校則や生徒・保護者向けアンケート、危機管理マニュアル等についても、時代の変化に対応した見直しを行った。生徒会スローガンの掲示や東京2020パラリンピック代表の卒業生による講話など、道徳の観点を踏まえた特別活動により母校への帰属意識を高める等、豊かな人間性の涵養にも力を入れた。進路指導においては、同窓会の協力による多方面へのインターンシップや徹底した面接指導、志望校に応じた小論文等の指導により、専門性を生かした高い目標への挑戦を可能にする体制が整った。さらに、特色化選抜を導入し、広報活動を強化することにより、中学生やその保護者への認知度を高め、定員割れを解消することができた。PTA・同窓会や地域・企業等との連携も強くなり、「チーム折尾」として学校力が高まりつつある。	学びあうことによる「主体的・対話的で深い学び」	・「社会に開かれた教育課程」を実現するためのカリキュラム・マネジメントを推進し、観点別評価を充実させ、授業改善を図る。 ・文房具としてのICTを活用した新たな学びを深化させ、校内外の仲間と切磋琢磨する高度な資格取得や競技会への挑戦を促す。 ・様々な体験活動や多様な他者と協働した探究的な学びの機会を設定し、実社会での課題解決に向けた教科等横断的な学びを推進する。	・すべての教育活動において、校訓「礼節・誠実・品性」を基軸とした人格形成を旨とする。 ・特別活動・部活動や地域連携等とおして、互いの良さや可能性を發揮できる人権尊重の精神の涵養を図り、社会貢献の意思を育む。 ・新しい生活様式を踏まえながら、安心・安全な教育環境の整備に努め、自分も他の人も価値ある存在として尊重し、互いの命を守る意識を高める。	・「おりこう手帳」や「キャリア・パスポート」を活用し自己の能力を最大限に引き出すことにより、進路決定のその先を見通したキャリア支援を行う。 ・学ぶことと自己の将来のつながりを見通し、社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を身に付けることができるキャリア教育を実践する。 ・大学や企業、地域社会や同窓会等との連携を強化し、各学科の専門性を生かした高い目標への挑戦を支援し、失敗しても挑み続ける心を育てる。	・持続可能な校務運営のためにOJT及び業務のICT化と不祥事防止に努め、校内外の研修会を活用し学びあう誇り高き教職員集団として組織力を高める。 ・各学科の生徒がともに学びあう本校の強みを最大限に生かした「おりこうブランド」の発信を強化することにより、安定的な志願者数を確保する。 ・PTAや同窓会及び地域社会との連携を強化し、生徒の成長を共に喜びあう「チーム折尾」としての学校力を高め、地域に愛される学校を目指す。	A : 適切である B : 概ね適切である C : やや適切である D : 不適切である		
	学びあうことによる豊かな人間性の育成	・「おりこう手帳」や「キャリア・パスポート」を活用し自己の能力を最大限に引き出すことにより、進路決定のその先を見通したキャリア支援を行う。 ・学ぶことと自己の将来のつながりを見通し、社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を身に付けることができるキャリア教育を実践する。 ・大学や企業、地域社会や同窓会等との連携を強化し、各学科の専門性を生かした高い目標への挑戦を支援し、失敗しても挑み続ける心を育てる。						
	学びあうことによるキャリア教育の推進	・持続可能な校務運営のためにOJT及び業務のICT化と不祥事防止に努め、校内外の研修会を活用し学びあう誇り高き教職員集団として組織力を高める。 ・各学科の生徒がともに学びあう本校の強みを最大限に生かした「おりこうブランド」の発信を強化することにより、安定的な志願者数を確保する。 ・PTAや同窓会及び地域社会との連携を強化し、生徒の成長を共に喜びあう「チーム折尾」としての学校力を高め、地域に愛される学校を目指す。						
	学びあうことによる学校力の強化	・持続可能な校務運営のためにOJT及び業務のICT化と不祥事防止に努め、校内外の研修会を活用し学びあう誇り高き教職員集団として組織力を高める。 ・各学科の生徒がともに学びあう本校の強みを最大限に生かした「おりこうブランド」の発信を強化することにより、安定的な志願者数を確保する。 ・PTAや同窓会及び地域社会との連携を強化し、生徒の成長を共に喜びあう「チーム折尾」としての学校力を高め、地域に愛される学校を目指す。						
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題	項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見	
教務部	体験的、探求的、教科等横断的な学びの推進	体験活動や他者との協働した探究的な学び、課題解決に繋がる教科等横断的な学びを推進する。	A	A	・本年度一新された3観点評価も大きな混乱なく実施することができた。「主体的に学習に取り組む態度」についての評価は今後も研修と研究を続け、「生徒の変容を見取る」ことができるものにしていかなくてはならない。また、一人一台端末の導入が実現したことを受けて、その活用を進めていくことも今後の課題である。	A	ICTを活用した授業実践は素晴らしい。施設設備も充実しており、今後もICTの活用や指導の充実が推進されることを期待している。 また、保護者や生徒の意見や思いをフィードバックさせ、さらなる授業改善に努めてほしい。	
	3観点による評価の充実	3観点別評価の一新とICTの活用を合わせて「指導と評価の一体化」を実現できるように改善を行う。	B					
	校務支援システムの円滑な運用	運営上のノウハウや課題を次世代に引き継げるように担当者を複数配置して人材の育成を行う。	A					
情報広報課	広報用ビデオの充実	昨年作成した広報用ビデオの更なる改善を実施し広報活動を充実させる。	A	A	・広報活動は、学校紹介動画の更新や中学生向けの説明会等も実施し好評であった。今後は、さらに広報の必要性が大きくなる。職員全員で広報活動を行う意識を持つことが必要である。	A	広報活動が積極的に行われており、折尾高校について地域の方に知っていただくことができている。特に、地域活動への参加や学校通信(おりこうだより)の地域配布は高評価を得ている。	
	リアルタイムな情報発信	各分掌等からの積極的なホームページの活用を促進する。	B					
	体験入学等の充実	保護者説明会、体験入学、中学生説明会等を実施し、入試も含めて本校の特色を発信する。	A					
生徒育成部	校訓「礼節・誠実・品性」を基軸とした人格の形成	全職員が統一した指導観のもと、成長を促す指導や予防的な指導を行うことにより、問題行動等の未然防止に努める。	B	A	・引き続き、校訓を基軸にした人格の形成を柱に、問題行動の未然防止に努める。 ・委員会活動をはじめ、生徒会活動や部活動等の活性化を推進する。 ・いじめ等アンケートを注視し、より良い人間関係の構築を図るよう働きかける。	A	様々な校則が見直され、生徒の主体性を尊重したものとなってきている。時代の流れに即して柔軟に対応していくことは、重要であるが、一方で校則はその学校の文化でもあり、大切にしなければならぬものは、しっかりと残してほしい。	
	豊かな人間性の育成並びに生徒会活動・部活動等の活性化を推進	生徒会活動や各種委員会活動、学校行事、部活動における個々の役割を明確にし、リーダーシップ・フォローワーシップを意識した行動を促す。	A					
	自分も他の人も価値ある存在として尊重する意識の涵養	学年や修学課、人権教育推進委員会と連携し、いじめの未然防止・早期発見に努め、いじめを許さない教育活動の推進に努める。	A					
	保健厚生課	生涯を通じた健康の保持増進の態度の育成	生徒健康診断の事後措置を適切に行い、心身の健康の保持増進につながる指導・支援を行う。	A	A	・防災訓練は、年度当初に1年生の避難経路確認を実施し、全体の避難訓練は、2学期に実施する。 ・感染症対策や環境美化の意識向上につながる委員会活動を行う。	A	生徒の学校内外でのマナーやモラルを向上させる指導もさらに充実させていく必要がある。
		個に応じた指導体制の強化	スクールカウンセラーによる心の健康相談を実施と特別支援コーディネータとの連携により、関係職員で情報共有を行い適切に対応する。	B				
		安全安心な教育環境の整備	保健委員会、整美委員会、厚生委員会の活動により、感染症対策及び清掃を徹底し環境美化の意識を高める。	A				
修学課	人権尊重の視点に立った学校づくりの推進	教職員や家庭への情報発信に努め、個々の生徒の実態を正しく把握し、必要な支援を行う。全職員で情報交換を密に行い、家庭や地域と連携しながら、多様性を認め合えるような集団の育成を目指す。	B	B	・生徒や家庭の実態把握と職員間の情報共有について、さらに丁寧に実施していく必要がある。日頃から「こころのお便り」等による情報発信・共有を行いながら、教職員の人権感覚の向上のための研修会等の機会も増やしていきたい。	A	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策については、保健委員会を中心に、生徒の主体的な活動となっていることが素晴らしい。来年度以降の対応が不透明であるが、適宜、適切な対応を求める。	
	教職員の人権に関する知識や意欲・態度・実践力の育成	校内研修の改善・充実を図るとともに、校外研修での成果を全職員で共有し、教職員の人権感覚の向上と、人権学習教材の効果的な活用につなげる。	B					
	差別を見抜く感性と、自他の人権を守ろうとする意志と実践力を育成する人権教育の推進	自分も他の人も価値ある存在として尊重し、互いの命を守る意識を高めるために、人権教育特設授業の充実を図るとともに、全教科・全領域での人権尊重の視点に立った教育活動を実践する。	A					
キャリア教育部	進路決定のその先を見通したキャリア支援の推進	「おりこう手帳」や「キャリア・パスポート」の有効活用を促し、進路集会や生徒との個人面談、保護者への情報提供を充実させる。	A	A	・現在実施している進路行事について、教育効果と継続性の観点から見直しや実施方法の変更を行う。 ・志望理由や小論文について、全職員で指導できる体制づくりを行う。 ・学年進路行事について、進路担当が円滑に実施できるよう連携を強化する。	A	本校は教育内容が専門的で、生徒は卒業後に役立つ力をしっかり身に付けているので、面接等で自信を持ってアピールしてほしい。 また、内定後の指導も充実させ、意識の高揚を図ってほしい。	
	専門性を生かした高い目標設定の支援	学年ごとの資格取得等資料の提示や進路通信の発行により、高い目標への挑戦を支援し、挑み続ける心を育てる。	A					
	「チーム折尾」でキャリア教育を推進	大学や企業、地域社会や同窓会等の協力のもと、学年間の連携を図りながら、「チーム折尾」でキャリア教育を推進する。	B					

研修部	研修図書課	体験的、探求的、教科等横断的な学びを目指す研修体制の構築	ICTの活用、教科等横断的な学び、観点別評価にかかる効果的な研修会を工夫すると共に、学習活動に生かす図書館運営を推進する。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 生徒がICTを効果的に活用する授業実践についての情報共有を進める。 教科部会の活性化を図るため、公開授業週間にて全職員でパフォーマンス課題・評価の実践を行いたい。 ウィズコロナにおいて学校行事が円滑に実施できるように柔軟な対応と他分掌の協力を得ながらまた負担が偏らないように業務の精選を行う。 	<p>A</p> <p>ICTを活用した授業や学校行事に向けた教職員のスキル向上は、今後必須であり、研修体系の確立が求められる。</p> <p>日常の連絡が十分に届かない家庭もあるようである。緊急連絡メール活用など、さらに細やかな連絡体制の構築も検討が必要である。 HPの更新は随時行われており、動画の公開など効果的な情報発信がなされている。</p>
		配慮が必要な生徒への理解を深める技能向上	生徒理解を深めるための研修会を実施する。	A				
		学びあう教職員集団としての組織力の強化	職員への校外研修会の情報の発信を、掲示に加えICTを使い速やかに行う。	B				
	庶務課	学校行事・式典などの円滑な運営	前年度の反省や職員の意見を活かし、分掌と連携して各行事の目標を達成する。校訓を基軸とした人格形成を目指し、全職員が共通認識のもと円滑な運営となるよう支援に努める。	A	A			
		年間・月別行事の連絡徹底	月別行事予定は1か月前までに職員配付とクラス掲示を行う。またHPにも掲載、更新を行い、広報活動の一助となるように努める。	A				
		PTA活動の充実	新しい生活様式を踏まえた活動内容に見直し、各分掌と調整を図って、PTAの連携強化に努めることで「チーム折尾」としての学校力を高める。	A				
第一学年	基本的な生活習慣の確立	おりこう手帳や学習計画表を活用し、見通しをもったスケジュール管理の徹底を図る。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> おりこう手帳の記入方法や活用に関して、個人差を踏まえ定着する手立てが必要である。 google classroomの活用により、課題提出ができています。家庭学習習慣を身に付けさせたい。 授業規律を重視し、受け答えなどでもできるようになってきている。今後は積極的な発言を促したい。 		
	基礎学力の定着	ICTを効果的に活用した家庭学習を促進するとともに、積極的に資格取得にチャレンジさせる。	B					
	豊かな人間性の涵養	校訓「礼節・誠実・品性」を基軸とした礼法指導の徹底を図り、行事等を通して生徒主体の学年を創造していく。	A					
第二学年	自主的活動の推進	各委員会の連携を強化し、学校行事を生徒主体で取り組める環境づくりに力を入れる。	A	B	B		<ul style="list-style-type: none"> 修学旅行を通して、各委員会が連携し生徒が主体的に取り組める環境を作ることができた。この経験を生かし、次年度は最終学年として学校を引っ張っていきけるように努力していきたい。 難易度や倍率が高くても自分が行きたい学校に挑戦した生徒が多く職員も全力でサポートした。組織的なサポート体制が確立すればなお良い。 一部の生徒が遅刻や提出物の遅れが改善できず、また、手帳記入や活用方法の指導が不十分であった。 学科を超えた体育大会やひいらぎ祭など学校行事を最上級生として取り組むことができた。 	
	基礎学力の向上	家庭学習を習慣化させ、資格取得にもチャレンジする。	B					
	希望進路実現のための準備	様々な進路行事を活用し、来年を見据えた進路指導を行う。	B					
第三学年	希望進路の実現	希望進路の実現に必要な具体的な準備の推進と的確な支援を行う。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭(ひいらぎ祭)における販売実習ではこれまでの学習を發揮し大変すばらしいものであった。また今後もさらに新しい商業科としての転機となるよう取組に期待する。 		
	自己指導力の育成	卒業後を見据えた自己管理能力やルールやマナーを遵守する規範意識を定着させる。	B					
	豊かな人間性の涵養	特別活動や学校行事等を通して、互いの良さや可能性を發揮させ課題の解決に向けて協働する力を育てる。	A					
商業科	主体的・対話的で深い学びの実践	ICTを活用した効果的な学習指導を推進する。	A	A	A		<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用した授業改善を商業科教員で共有し、教科の特性に即した指導方法の工夫改善に取り組んだ。不十分な点については、研修等を強化していく。 資格取得の意識づけや各種競技会の参加について、学科として主体的に取り組んでいく。 課題研究を中心に生活デザイン科との連携を図り、特にSNSを活用した教育内容の発信に努めた。 	
	専門的職業人の育成	進路に生かせる高度な資格取得を推奨するとともに、各種競技会へ挑戦する。	B					
	学科間の連携強化	課題研究を中心に家庭科との連携を強化する。	A					
家庭科	主体的・協働的な学びの実践	ICTを活用した主体的で深い学びを実践し、学科間や地域社会など多様な人々と連携し、協働的に取り組む態度を育てる。	A	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ICTを活用した授業内容を家庭科教員全体で共有し、ChromeBookの活用術など教科内での研修が必要である。 受検する検定や資格の精選のために教員自身の専門性を高め、教科指導の徹底を図る。 YouTubeやインスタなどHPにとどまらず、生活デザイン科の情報を発信していく。 		
	専門性を活かしたキャリア教育の推進	教科の専門性を高め、進路を意識した検定・資格の精選を行い、高い目標への挑戦を支援するキャリア教育を積極的に行う。	B					
	学科の魅力発信の強化	特色ある学科の成果を視覚的に伝えられるよう学習環境を整備し、情報を迅速に発信する。	A					
事務部	制度、事業などの周知徹底	教職員及び保護者に対し通知する方法を理解しやすいように工夫し、制度や事業内容等の周知徹底を図る。	A	A	A		<ul style="list-style-type: none"> 予算の有効活用と迅速な執行を心がける。 光熱水費など管理費の節減に努める。 	
	教育環境の充実	感染症対策やICT環境等の教育環境の整備を積極的に行う。	A					
	予算の有効的執行	限られた予算で最大限の効果・成果を出すため分権予算の有効的執行を行う。	A					

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

- 1 生徒一人一台端末の整備を踏まえ、文房具としてのICTを活用した新たな学びを深化させ、授業改善を図る
- 2 安心・安全な教育環境の整備に努め、互いの命と人権を守る意識を高める。
- 3 地域・家庭と連携し、「社会に開かれた教育課程」を進めるためのカリキュラムマネジメントの推進を図り、社会的・職業的自立に向けて必要となる資質・能力を身に付けることができるキャリア教育を実践する。
- 4 本校の強みを最大限に生かした「おりこうブランド」の発信を強化し、安定的な志願者数を確保する。

評価項目以外のものに関する意見
生徒がいつも清々しく、校訓の「礼節・誠実・品性」が体現できている。